

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12909

研究課題名(和文) アジア圏英語学習者の作文・発話の体系的修訂に基づく大規模校閲コーパスの開発と分析

研究課題名(英文) Development and Analysis of the ICNALE Edited Essays

研究代表者

石川 慎一郎 (Ishikawa, Shin'ichiro)

神戸大学・大学教育推進機構・教授

研究者番号：90320994

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：3年間のプロジェクトでは、英語を母語とする専門校閲家を組織し、アジアの10か国・地域の320人の学習者による640本の作文に対して、1)ESL Composition Profile (Jacobs et al. 1981)に基づく5観点評点(内容・構成・語彙・言語使用・表記)と、2)その完全な校閲バージョンが用意された。プロジェクトで収集したデータは、ICNALE Edited Essaysと称する新たなモジュールにまとめられ、2018年3月までにダウンロード版およびオンライン検索版として全面公開された。この間、収集したデータを用いて30本以上の関連研究が発表・公刊された。

研究成果の概要(英文)：In this project, we hired a group of professional editors, who edited 640 essays written by 320 learners in ten countries and areas in Asia. They also rated each essay based on the five categories (contents, organization, vocabulary, language use, mechanics) proposed in the ESL Composition Profile (Jacobs et al. 1981). Collected data has been released as a new addition to the ICNALE, The ICNALE Edited Essays. It is now available both in a download version and an online version. More than thirty papers were published, based on this newly collected data set.

研究分野：応用言語学

キーワード：学習者コーパス 作文 校閲 アジア圏英語学習者 中間言語対照研究

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の渦中にある日本の英語教育の質的向上を目指す上で喫緊の課題は、言語産出におけるモデルと学習者の乖離を客観的に把握し、両者間の距離の最小化を図ることである。この意味において母語話者校閲は有効な手段となる。

筆者は日本人を含む各国学習者の英作文・英語発話を収集し、世界最大のアジア圏学習者コーパス ICNALE を構築したが、予算的制約から、校閲データは包含できていなかった。

2. 研究の目的

本プロジェクトは、この欠落を埋めることを目的として開始された。研究の目的は、(1)ICNALE の Edited Essays モジュールの構築・公開と、(2)収集したデータを用いたアジア圏学習者の英作文の質に関する新たな観点からの分析・検討の実施、の2点である。

3. 研究の方法

本プロジェクトでは、アジア圏 10 か国・地域の大学生の作文をサンプリングし、それらに対して、母語話者による直接評価データと校閲データを取得する。

原文と収集された校閲文を比較することで、各国・地域学習者の英作文の特質を解明する。また、校閲量(編集距離)と直接評価データを比較することにより、文法的正確性と作文としての良さの乖離の度合いを検討する。

4. 研究成果

3年間のプロジェクトでは、英語を母語とする専門校閲家を組織し、アジアの10か国・地域の320人の学習者による640本の作文に対して、1)ESL Composition Profile (Jacobs et al. 1981)に基づく5観点評点(内容・構成・語彙・言語使用・表記)と、2)その完全な校閲バージョンが用意された。プロジェクトで収集したデータは、ICNALE Edited Essays と称する新たなモジュールにまとめられ、2018年3月までにダウンロード版およびオンライン検索版として全面公開された。

また、この間、収集したデータを用いて30本以上の関連研究が発表・公刊された。それらの研究では、(1)各国学習者ごとの作文の観点評価の比較、(2)観点評価と校閲量(校閲者による追加や削除の回数)の関係のモデル化、(3)評価者の判断の安定性検証などのテーマが扱われた。

今回のプロジェクトで公開されたデータ従前において内外にほとんど類例のないもので、学習者研究の新たな基盤資料となるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

(雑誌論文)(計25件)

凡例: 連番・著者/年月日/題目/雑誌名/ページ数/査読

1. 石川 慎一郎 / 2018/3/29 / "L2 日本語彙の習得プロセスについて LARP at SCU コーパスを用いた台湾人学習者による日本語彙運用の時系列分析" / 統計数理研究所共同研究レポート, 400 / 1-18

2. 石川 慎一郎 / 石田 麻衣子 / 杉山 はるか / 田 真由美 / 2018/3/20 / グローバルキャリア人の育成をめざす新しい小学校英語教育の創造 神戸大学附属小学校「グローバル英語教育」の理念と実践 / 神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 14 / 1-13

3. Ishikawa Shin'ichiro / 2018/1/31 / How L2 Learners' Critical Thinking Ability Influences Their L2 Performance: A Statistical Approach / Advances in Social Science, Education and Humanities Research (Atlantis Press), 145 / 70-75(査読)

4. Ishikawa Shin'ichiro / 2017/12/25 / "From Principle to Practice: Integration of the Principles of English as a Lingua Franca, Content and Language Integrated Learning, Deep Active Learning, and Cooperative Language Learning in the Design of Communicative English Language Teaching for Japanese College Students" / 大学英語教育学会中部支部紀要, 15 / 11-27(招待)

5. 石川 慎一郎 / 岩見 理華 / 2017/12/10 / グローバル体験学習と探究学習が高校生の教科学力およびグローバル能力に与える影響 / 信学技報(電子情報通信学会 思考と言語研究会) TL2017-46 / 13-18

6. Ishikawa Shin'ichiro / 2017/12/1 / Learners' Acquisition and Use of L2 Japanese Vocabulary: Influence of L1 Backgrounds and L2 Proficiency Levels: A Learner Corpus-based Analysis / 第2言語としての日本語の習得研究(第二言語習得研究会/凡人社) 20 / 10-27(招待)

7. 石川 慎一郎 / 2017/9/23 / 現代日本語における「デ」格の意味役割の再考: コーパス頻度調査に基づく用法記述の精緻化と認知的意味拡張モデルの検証 / 計量国語学(計量国語学会) 31(2) / 99-115(招待)

8. Ishikawa Shin'ichiro / 2017/9/6 / "A Reconsideration of the Needed Sample Size in Learner Corpus Studies" / 国立国語研究所言語資源活用ワークショップ 2017 発表論文集 / 153-162

9. Ishikawa Shin'ichiro / 2017/7/10 / A Corpus-based Study of the Size and the Level of the Vocabulary Used by Japanese Learners of English at Different

Proficiency Levels / 東京外国語大学国際ワークショップ予稿集「外国語教育の変革：国際連携・高大連携・ICT」2017 / 31-39 (招待)

10. 石川 慎一郎 / 2017/3/31 / 大学英語教育における形成的評価：統計手法を用いた形成的評価データの特性の解明 / 大学教育研究 (神戸大学大学教育推進機構), 25 / 63-81

11. 増見 敦 / 石川 慎一郎 / 2017/3/31 / 日本人高校生の L2 英語発話の流暢性を高める フィードバックのあり方 自己評価・ピア評価・指導者評価の有効性の検証 / 神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 13 / 76-89

12. 石川 慎一郎 / 田中 泰明 / 2017/3/15 / 高校英語教育におけるアクティブラーニングの可能性：小学校での英語発音指導体験が L2 発音に対する高校生の興味・自信に及ぼす影響 / 統計数理研究所共同研究レポート 373/374 / 43-54

13. 石川 慎一郎 / 2017/3/15 / X々型畳語の構造・使用・意味特性 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いた計量的調査 / 統計数理研究所共同研究レポート 373/374 / 55-74

14. 石川 慎一郎 / 2017/3/10 / 多様な外国語学習者の言語使用特性：中国人英語 / 日本語学習者の過剰・過小使用語彙 / 第 2 回学習者コーパスワークショップ予稿集：学習者コーパス利用の可能性を考える (国立国語研究所) / 57-68 (招待)

15. 石川 慎一郎 / 2017/3/7 / 日本語学習者コーパスの教育応用における留意点 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』に見る母語話者 L1 産出データの安定性検証を中心に / 言語資源活用ワークショップ 2016 発表論文集 (国立国語研究所) / 190-200

16. Ishikawa Shin'ichiro / 2016/11/28 / Use of That-Clauses After Reporting Verbs in Asian Learners' Speech and Writing: Frequency, Verb Type, and That-Omission / A. Moreno Ortiz & C. Pérez-Hernández (Eds.), EpiC Series in Language and Linguistics, 1 (CILC2016: 8th International Conference on Corpus Linguistics) / 202-215 (査読)

17. 石川 慎一郎 / 2016/11/19 / キーコンピテンシーを志向したカリキュラムデザイン / 神戸大学附属小学校研究紀要 4 (附属幼稚園研究紀要 37 号合併号) / 170-180

18. Ishikawa Shin'ichiro / 2016/11/12 / Strategy of identity-marking: A learner corpus-based study on use of the 1st person pronouns in L2 English essays/ speeches by Chinese, Japanese, and Korean learners / Proceedings of The Sociolinguistic Society of Korea 2016 Autumn Conference / 91-106 (査読)

19. 石川 慎一郎 / 2016/9/10 / 日本人学習者の L2 英語の発話量：母語話者及びアジア圏学習者との比較 / 日英言語文化研究 (日英

言語文化学会), 5 / 15-26 (査読)

20. 石川 慎一郎 / 2016/2/29 / "L2 プレゼンテーション評価における全体順位付けの問題 評点調整法および順位調整法の選択が最終順位に与える影響" / 統計数理研究所共同研究レポート, 353 / 29-46

21. Ishikawa Shin'ichiro / 2015/12/29 / Noun/verb Ratio in L1 Japanese, L1 English, and L2 English: A Corpus-based Study / Proceedings of The Second International Conference on Language, Education, Humanities & Innovation (ICLEHI) 2015 / 134-145 (査読)

22. 石川 慎一郎 / 2015/12/12 / The ICNALE: 国際中間言語対照分析研究のための新たな学習者コーパスの開発 / 電子情報通信学会技術研究報告：信学技報, 115(361) / 13-18

23. Ishikawa Shin'ichiro / 2015/7/24 / Lexical Development in L2 English Learners' Speeches and Writings / Procedia - Social and Behavioral Sciences, 198 / 202-210 (査読)

24. Ishikawa Shin'ichiro / 2015/6/30 / A consideration of the differences between the spoken and written English of native speakers and Japanese learners: A corpus-based study / Discourse and Interaction (Masaryk University, Czech Republic), 8(1) / 37-52 (査読)

25. Ishikawa Shin'ichiro / 2015/6/24 / The Influences of Learners' Basic Attributes and Learning Histories on L2 Speech Fluency: A Case Study of Japanese and Chinese Learners of English / Procedia - Social and Behavioral Sciences, 192 / 516-525 (査読)

〔学会発表〕(計 50 件)

凡例：連番・著者 / 年月日 / 題目 / 学会名 / 主催者名 / 会場

1. 石川 慎一郎 / 2017/11/11 / (講演) 教材コーパス・入試コーパス・学習者コーパスに見る日本人学習者の連語使用：インプットとアウトプットの差を探る / 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部基礎理論研究会主催 2017 年度公開講演会 / 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部基礎理論研究会 / 関西学院大学梅田キャンパス

2. 石川 慎一郎 / 2017/10/28 / (講演) L2 学習者の「文体」 学習者コーパス分析からの知見 / 日本文体論学会第 112 回大会 / 日本文体論学会 / 近畿大学

3. 石川 慎一郎 / 2017/10/1 / (講演) A Frontier in Learner Corpus Studies: For Better Understanding of L2 Learners / 英語コーパス学会第 27 回大会 / 英語コーパス学会 / 関西学院大学

~ 他略 ~

〔図書〕(計8件)

(単著)

凡例：連番・著者／年月日／題目／出版社／ページ数／共著の場合の本人担当部

1. 石川 慎一郎 / 2017/3/24 / ベーシック
応用言語学：L2の習得・処理・学習・教授・
評価 / ひつじ書房 / 全 351p /

(編著)

2. 【編】Ishikawa Shin' ichiro【著】石川
慎一郎 他全 24 名 / 2018/3/12 / 『Learner
Corpus Studies in Asia and the World Vol.3』
/ Kobe University / 全 323p / Ch. 1 「The
ICNALE Spoken Dialogue の設計 対話におけ
る L2 口頭産出研究のために」 (pp.9-26)

3. 【編】石川有香, 石川慎一郎, 前田忠彦
他全 7 名,【著】石川慎一郎, 小山由紀江,
長加奈子他全 22 名(筆頭著者数) / 2016/3/10
/ 『言語研究と量的アプローチ』 / 金星堂 /
全 307p / Ch. 11 批判的思考態度と L2 理解
力：学習者の性別・専門系・習熟度レベルの
影響 (pp. 130-144)

(分担執筆)

4. 【編】石川 有香 【著】石川 慎一郎他
全 13 名 / 2018/3/31 / 『ESP 語彙研究の地平』
/ 石川 有香(編)『ESP 語彙研究の地平』(金
星堂) / "2-20 / 上級英語学術語彙表
"BABYLON 2000" の開発 6 つの理念に基
づく新しい EGAP 語彙選定の試み

5. 【編】今尾 康裕 / 岡田 悠佑 / 小口 一
郎 / 早瀬 尚子 【著】石川 慎一郎他全 28
名 / 2017/4/27 / 英語教育徹底リフレッシ
ュ：グローバル化と 21 世紀型の教育 / 開拓
社 / 全 313p / 第 1 部-2 「コーパスと英語教
育：語彙・語法文法・産出指導へのコーパス
の寄与」(pp. 14-25)

6. 【編】Joanna Szerszunowicz, Boguslaw
Nowowiejski, Priscilla Ishida, &
Katsumasa Yagi【著】Ishikawa Shin' ichiro,
Wlodzimierz Wysoczanski 他全 32 名 /
2016/4/1 / Intercontinental Dialogue on
Phraseology Vol.3: Linguo-cultural
Research on Phraseology / University of
Bialystok Publishing House, Poland / 全
599p / Ch. 6-3 "Japanese Polite
Sentence-final Markers: desu, desuyo,
desune, and desuyone A corpus-based
analysis with a focus on frequency,
collocation, and functional grouping" (pp.
537-554)

7. 【監修】堀 正広 / 赤野 一郎 【編】
投野 由紀夫 【著】投野 由紀夫 / 中條
清美 / 羽山 恵 / 成田 真澄 / 石川 慎一
郎 / 小山 由紀江 / 金子 恵美子 /
2015/10/1 / 『コーパスと英語教育』 / ひつ
じ書房 / 全 208p / 学習者コーパス : 国
内における英語学習者コーパスの開発と研
究 (pp. 99-129)

8. 【編】Olga M. Karpova, Faina I.
Kartashkova, 【著】Geoffrey Williams/
Nicoletta Maraschio / Ishikawa

Shin' ichiro/ 他全 18 名(筆頭のみ) /
2015/8/1 / Life beyond Dictionaries /
Cambridge Scholars Publishing (UK) / 全
220p / Ch16 The Contribution of Learner
Corpus Studies for Dictionary Making:
Identification of Deviant L2 Vocabulary
Use by Asian Learners (pp.174-184)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

(ICNALE)

<http://language.sakura.ne.jp/icnale/>

(科研プロジェクト)

<http://iskwshin.blogspot.com/2017/05/201751-31.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

石川 慎一郎 (ISHIKAWA, Shin' ichiro)

神戸大学・大学教育推進機構・教授

研究者番号：90320994

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

なし